

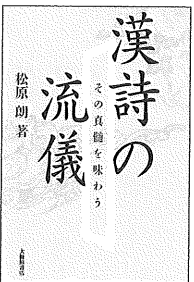
松原朗 著

# 漢詩の流儀

——その真髓を味わう

四六判・上製・三〇六頁

定価〓本体二二〇〇円十税



評者〓紺野達也

神戸市外国語大学外国語学部准教授

文学、特に長い歴史を持つ漢詩（中国古典詩）には様々な作り方（読み方でもある）がある。本書はこれを「流儀」と呼び、テーマ・歳時・詩語に即して紹介する。

著者の考えによれば、漢詩人は決して自由に詩を読み、作ったのではなく、それまでの文学の流儀をもとに詩を鑑賞し、創作してきた。この点で「序章」にいう漢詩における政治への強い関心や余韻の重視は漢詩の流儀のなかでも本質的かつ典型的なものである。もちろん、本書

を一読してわかるように、テーマの発生や流行、詩語のイメージの強弱など、個々の様相は一律ではない。ただ、重要なのは、そのような流儀が確かに、そして重層的に存在するからこそ（さらに特有の韻律とあいまって）漢詩の豊かな表現世界が生まれ得たことだろう。

現在、国語教育で漢詩にかけられる時間は少ない。しかし、それゆえに本書を通じて漢詩の「流儀」とそれが織りなす多彩な世界を味わい、伝えてほしいと願っている。